

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2016

12月



No.138

特集

P2・3

『支え合いの地域づくり』を めざして

生活支援コーディネーター
の取り組み



ひ孫と
いっしょ

シリーズ137

千種町 岩野辺

すぎもと こうじ
杉本 幸治さん(87歳)

やちえ
八千恵さん(81歳)

あん
○杏ちゃん(2歳)

すぎもと まさる
杉本 勝さん・千里さん

■長女

『支え合いの地域づくり』をめざして

生活支援コーディネーターの取り組み



制度の説明や啓発のため地域まわりをがんばっています！

9/12 日ノ原・音水「住民学習会」

介護保険制度の改正とこれから必要になる地域活動について説明(日ノ原公民館)

平成27年4月の介護保険制度の改正により、各自治体では、介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)が創設され、それに合わせて、地域の支え合いによる生活支援サービスの体制整備を進めていくために、新たな専門職として「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)」が誕生しました。
今号では、穴栗市社協に配置の生活支援コーディネーターが進めている取り組みを報告します。

生活支援 コーディネーターの役割

生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)は、地域のさまざまな情報を把握し、その情報をどう活かすかを考え、住民同士の活動につないでいく「仕掛け役」です。

住民の日々のつながりは表からは見えにくいものですが、地域の「宝物」と呼ばれるものであり、住民のみなさんといっしょに地域の特性や実情に合わせながら、地域の宝物を集めていきます。

そして、『誰もが暮らしやすい支え合いの地域づくり』を進めていくために、地域の課題と支え合い活動の実践者や関係機関などをつないだり、既存の組織や団体などと連携して住民主体の地域づくりを支援し、そのために必要となる『話し合いの場』協議体づくりが主な役割となります。

穴栗市では、市域(第1層)のコーディネーターを行政の地域包括支援センターに1名、この4月からは保健福祉圏域Ⅱ旧町域(第2層)のコーディネーター

を社協で2名配置しています。

3名のコーディネーターで毎週情報を持ち寄り、業務の進捗確認やスケジュールの調整等、相互に連携を図りながら取り組んでいます。



私たち生活支援コーディネーターを見かけたらお気軽に声をかけてください

地域まわりの中で 見えてきた事(課題)

28年度は、地域の実情や特性を知ることから始めようと、介護保険制度への理解を深める機会として、自治会福祉連絡会や役員会、老人クラブや女性会、ボランティア等の集まりへ出向き、制度改正や地域包括ケアシステムの説明、地域づくりの啓発、学習会や座談会など重点的に行っています。

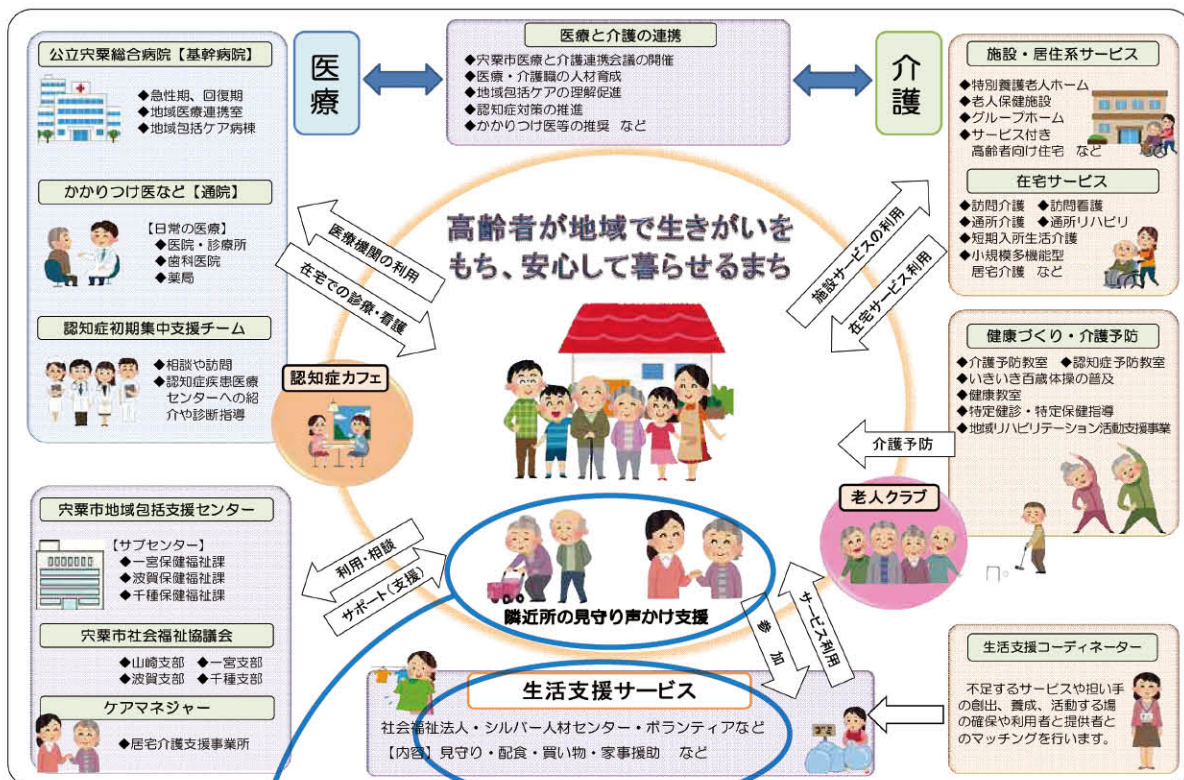
読者の
感想より

各地域の活動をいつも読ませてもらい、皆さん頑張っておられる事に感動しています(山崎町 女性)

穴栗市がめざす介護の将来像(地域包括ケアシステム)

国が示す地域包括ケアシステムの5つの要素「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」を一体的に提供し、高齢者が地域で生きがいを持ち、安心して暮らせるよう地域の実情にあった地域包括システムの構築をめざします。

「地域包括ケアシステム」を穴栗市で構築していくために、穴栗市社協が地域で培ってきたネットワークや地域福祉活動の取り組みを踏まえ、それぞれの地域特性に応じ、長期的な視点に立ちながら活動を進めます。



「第6期穴栗市介護保険事業計画」から引用



福祉連絡会の場で

自治会福祉連絡会の話し合いの場を協議体づくりの場に
(五十波福祉連絡会にて)



ボランティアの集まりで

ボランティア活動がこれからは生活支援としての役割を担ってきます
(山崎ボランティアのつどいにて)

その中で、介護保険制度の改正についてまだまだ認知されていないこと、支え合い活動や地域づくりを進めたくても手段が分からず悩んでいた、5年・10年先を見すえて地域のことを話し合う機会がないなど、地域の抱えている課題がたくさん見えてきました。

また、活動を実践されている方や組織への支援も必要であることを改めて感じました。

協議体づくりに向けた取り組み

支え合いの地域づくりを地域全体で進めていくには、行政職員・専門職・事業者など（支援のプロ）の集まりだけでなく、地域活動をしている人・住民の物知りや世話好きの人・長年住み続けている元気な高齢者など（地域のプロ）、福祉の枠を超えた情報交流や話し合いの場が協議体づくりが重要となってきます。

社協の生活支援コーディネーターは、住民と関係者や機関などがつながるよう働きかけ、旧町域（第2層）での連携の場はもちろんのこと、自治会や隣保などのより身近な生活圏域（第3層）では、社協がこれまで進めてきた小地域福祉活動の推進組織である「福祉連絡会」にその役割を担ってもらうのが理想であると考えます。

今後は、住民が主体となつて、元気な地域をつくりだすための協議体づくりに向けた取り組みを、住民のみなさんといっしょに進めていきます。

（生活支援コーディネーター

森井 裕矢

読者の感想より

毎月「こんにちは!社協です!!」を読むのが待ち遠しく拝読させて頂いています(山崎町 女性)

やさしさ

「認知症」について学んだよ

山崎小学校「福祉学習」

11月24日(木) 山崎小学校の6年生67人が、認知症サポーターキャラバンメイトを講師に迎え、「認知症サポーター養成講座」を受講しました。

認知症サポーターとは、認知症の人を温かい目で見守る「応援者」で、何か特別なことをする人ではないことを学びました。

児童たちは、「認知症について考えたのは初めて。やさしく声をかけたらいいと思う」「家族には認知症になっでほしくないな。でも病気だから助けてあげたい」といった素直な気持ちや自分たちにできることを発表しました。

最後に、「認知症の人に接することは不安もありますが、優しい声かけや見守りをしてあげてください」と、認知症サポーターの証である「オレンジリング」が渡されました。



脳の仕組みについて学んだり、グループに分かれて「ごはんはまだ?」「さいふがない」と何度も言う認知症の人への対応について話し合いました(山崎小学校)

(山崎支部 山本めぐみ)



オレンジリング

現在、85歳以上の高齢者4人に1人は、認知症の症状があると言われています。誰もが安心して暮らすことができる地域社会になるためにも、私たち一人ひとりが認知症への理解を深め、自分たちに出来ることを考え、地域みんなで支え合い見守っていきましょう。

いのちのみや

元気をもらえた!幼稚園児と交流

東市場ふれあいサロン

11月24日(木)、東市場ふれあいサロンが行われ、神戸幼稚園の園児38人が公民館へ歩いてやってきました。この交流は6年前から始まり、幼稚園から徒歩5分で公民館に行けることや、園児たちと交流する機会やお遊戯を発表する場として毎年続いています。

最初に園児の自己紹介から始まり、おじいちゃんおばあちゃんから大きな拍手が送られ、歌やダンスの披露、じゃんけん遊びなど楽しい時間を過ごしました。

また、園児たちからのサプライズで手作りの首飾りがプレゼントされ、「嬉しいわ。本当にありがとう」「こんな小さい子とふれあうのも久しぶりやなあ。元気を



元気いっぱい子どもたちにニッコリ!(東市場公民館)

もらえたで」と、受け取ったみなさんは大喜びでした。サロン担当の志水通範さん(しみずみちのり)は「かわい子どもたちとの交流で皆に喜んでもらえた。これからも続けていきたい」と思いを話されました。ほっと一息ついた後、元気をもらったり、つどいの場として定着している東市場の取り組みは本当に素晴らしい、これからも、サロンの中での出会いやつながりをしっかりとサポートしていきます。

(二宮支部 岡崎章訓)

は
が

きれいで立派な建物にびっくり!

第6ブロックのつどいでお出かけ

11月24日(木)、波賀町北部地域(日ノ原、音水、引原、鹿伏、戸倉、道谷)の高齢者を対象にした介護予防事業「第6ブロックのつどい」を実施しました。

このつどいは、主に鹿伏公民館で行っていますが、今回は粟市内でも中々行く機会がない、宍粟防災センターや市役所を見学しようとして企画しました。

宍粟防災センターでは最近頻繁に発生している「地震」をテーマに地震体験や津波のメカニズムを映像で学び、その後、宍粟市役所へ移動し本庁舎を見学しました。

参加者は初めて訪れた方も多く、「普段行くことがないのでいい機会になった」「きれいで立派な建物にびっくりした」など、様々な声を聞く



震度7を体験。コンロの火を消して早く机の下に(宍粟防災センター)

ことができました。鹿伏老人会長の小椋清之助さんは「このような取り組みは車を運転できない方々にとってはとてもありがたいこと。みんなとても喜んでいました」と話されます。

本会では、今後も参加者の声を聞きながら、少しの工夫とアイデアで楽しく集える事業を計画していきます。

(波賀支部 田中祥仁)

ち
くさ

「そばのええ匂いやなく美味しいわ」

ふれあいサロンでそば作り

11月27日(日)、西河内公民館で行われたふれあいサロンで、地元男性農業者4人が「打ちたてのそば」を振る舞いました。

このそばは、西河内の休耕田で育てられ収穫されたそばの実を使ったもので、この日のためにそば打ちのメンバーが鳥取へそば打ち体験に行き、作り方を学んできました。

「ちよつと生地が固いかなあ。もうちよつと水をいれて」と相談しながら作業が進み、ちよつと太めのそばが出来上がりました。

メンバー代表の池田喜代美さんの「みなさん、打ちたてのそばを食べて下さい」との挨拶で始まり、「そばのええ匂いやなく」「男衆が作ってくれたで余計に美味しいわ」と美味しいそばに舌鼓。

このように、地域のた



「今日のそばの出来は90点かな」(西河内公民館)

めに「そば作り」で一汗かこうといった男性陣の取り組みがサロンの場で実践されたことは、西河内の地域づくりを進めていく上で大きな成果ではないでしょうか。

これから地域みんなでアイデアを出し合いふれあいサロンを盛り上げて下さい。

(千種支部 横山洋子)

宍粟市ボランティア連絡会の活動リポート 1.17 竹筒・ロウソクづくり



災害を風化させない

11月23日(祝)、「阪神淡路大震災1.17のつどい」へ届ける竹筒とロウソクづくりを行いました。作製した竹筒287本、ロウソク322個を神戸へ届けます。

宍粟市ボランティアのつどい



平時のつながりを大切に

11月30日(水)、ボランティア同士の交流を目的につどいを開催しました。「防災」をテーマに、災害対応カードゲームを通じて、平時からの地域のつながりの大切さについて考えました。

セカンドライフ応援セミナー 第5期生 “第二の人生”は地域のために



11月28日(月)、セカンドライフ応援セミナー(全4回)の最終回として、たかのす東小学校(旧千種東小学校)を訪ねました。

当日は、空校舎を集落活性化の拠点として活動する鷹巣活性化委員会の取り組みを聞き、ピザ作りを体験しました。

「空校舎を生かして楽しんで地域おこしをされているのがすごい」「みんなでワイワイと仲良くピザ作りができた」「私の地域でもできることを探してみようと思う」といった声が聞かれ、5期生のセミナーは終了しました。

受講生のみなさん、コミュニケーション麻雀や福祉施設の見学など、セミナーでの学びや体験を活かした地域でのご活躍を期待しています。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)

配食サービスの調理・配達 ボランティアが交流



～地域のつながりを深める学習会～ こころあったかカフェ

11月26日(土)、千種保健福祉センターを会場に「こころあったかカフェ※」が開催され、千種支部の配食サービスで活躍されているボランティアが交流の場を持ちました。

調理と配達のボランティアが、お茶を飲みながら意見交換を行い、「お弁当がどのように作られ届けられるのか分かった」「配食が見守りや安否確認につながることを再確認した」といった声が聞かれました。

そして、宍粟市で地域包括ケアシステムを構築していく中で、配食サービスが生活支援としての大切な役割を担っていくことを参加者全員で共有しました。

配食ボランティアのみなさん、これからも事業へのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

(千種支部 小原志のぶ)

※こころあったかカフェ…地域のつながりを深める機会を作ろうと千種地域福祉推進委員会が企画しています。

ひょうご県民 ボランティア活動賞 受賞



「真心をもって
子どもと接しています」

「子どもの成長を
みるのが楽しみです」

清水さんご夫婦

11月8日(火)に兵庫県公館でひょうご県民ボランティア活動賞の授賞式が行われ、清水信夫さん・ミエ子さん(山崎町)ご夫婦が受賞されました。

この賞は長年にわたり県民ボランティア活動を行っている方へ贈られます。

清水さんご夫婦は社協が主催する「こどもホームステイ事業」で26年にわたり、里親ボランティア(ホストファミリー)として協力いただいています。

「最初は不安もあったんですが、家族や地域の支えがあるので続けられています」と話されていました。本当におめでとうございます。これからもよろしくお願いいたします。(山崎支部 秦 亜里彩)